



# 家庭でできる 言語の育み

～お家でできる取り組みを年齢別にご紹介～

言語聴覚士 齋藤 久美子





2歳~2歳6ヶ月頃：興味があるものの名前を伝えよう

オノマトペなど用いて言葉を育もう

本人がやりたいと思えるものはどんどん挑戦していこう。

その際は「お着替えしようね」「右足」「左足」など言葉掛けも

一緒に。また「トントン」「どんどん」など擬音語と擬態語

(オノマトペ)を併用すると理解しやすくなる。



3歳~4歳頃：勝ち負けや反対言葉をたくさん吸収する時期

集団生活にも必要なソーシャルスキルを身につけよう。

焼き芋じゃんけんのような身体を動かしながらルールのあるじゃんけんを一緒に多なったり、すごろくやグリコなど数の概念を含めた遊びも楽しみながら行っていこう。

また絵本を利用して人の気持ちや状況を考える時間も作って  
いこう。



4歳~5歳頃：物の用途や反対言葉を養おう

固いものをよく噛んでお口の筋力UPも

文章で話すのが上手になってくる年頃なので「消しゴム」はどうやって使う？「固い」の反対の言葉は？など  
日常のものを見ながら遊び感覚で養っていきこう。  
また、お口周りをしっかり使うことで発音の明瞭度UPにも繋がる。



5歳~6歳頃：自分のことを伝えたり

絵本の要約や読み書きを始めましょう

就学に向けて家庭でも一年になったらどんな生活が始まるのか  
学校でのイメージを習得しよう。また自己紹介や  
自分の気持ちを伝える練習や絵本を読んだ後にどんな  
お話だったか自分のことばで伝える練習をしよう。



## 専門家よりまずは家庭でできることを

不安な時はどうしても色々調べてしまいうけど

まずはお家で保護者の方と楽しくことばを育んでいきましょう。

五感や身体使うことでたくさんのお話を吸収できます。

また、子どもは保護者の方の言動やことばをよく見て真似しています。日常の中で子どもの心や脳の発達を良好な親子関係で育てていきましょう。保護者の方も頑張りすぎず、日常の隙間時間んでいいのでお子さんとの時間を楽しんでください。

ご覧いただきありがとうございます

